



こまつ かいぞう
小松 快造 議員
(富岳会)

第4回全国小水力発電大会in富士宮について

問 今大会を生かし、富士宮市の再生可能エネルギーにどのような変化をおこし、また次の世代にどのようにつなげていくのか。

部長 3日間での延べ人数2450人、パネル討論、企業展の来場者が述べ1582人、うち市民参加は552人、多くの方に参加をいただいた。

今後も、小水力発電を含む再生可能エネルギーについて参入を希望する事業者があれば、情報提供や相談等、推進に向けた支援を行いたい。

今回作成した記念冊子について、出前講座を初め、小学生を対象としたアースキッズ事業等による環境教育に活用し、地球にやさしい再生可能エネルギーについて、一人でも多くの環境リーダーが育つよう取り組んでいく。こうした取り組みを推進し、地域の活性化や地域循環型社会の実現向

けた施策に生かしたい。

持続可能な開発目標について

問 SDGs、17の目標のうち環境と教育につながる7つの目標について市の考えを伺う。

部長 SDGsとは、持続可能な社会を実現するため、環境、教育、貧困など17分野にわたる課題について、2030年までに目標達成を目指すという、国連で採択された国際社会全体の目標。

富士宮市が持続可能なまちづくり目指し、地方創生事業として取り組んでいる施策、その多くが、SDGsが掲げる目標と同調している。目標一つ一つを見ると、私たちの暮らしに密接に結びついていることが多くある。市や民間企業はもちろん市民一人一人がこの目標を意識し行動することが重要である。

SDGsを意識することで自分たちの生活を国際視点からも感じ取れると思う。



▲ SDGs 17の目標



ふかさわ りゅうすけ
深澤 竜介 議員
(改正会)

健康寿命の指標であるお達者度が低い要因とその影響について

問 健康であることが、幸せの大きな要素であると考えが、富士宮市の男性のお達者度は、県内35市町中27位と下位である。その財政的な影響はどの程度であると推察できるか。

部長 お達者度が低く、寝たきりの年数が増えることで、トップの裾野市とは介護給付費で、年間3億円の差が出ている。

問 その結果、将来的にどうなるのか。

部長 介護保険料の値上げにつながる。

問 富士宮市の男性は、特定健診受診者のアンケート結果からどういう傾向が出ているのか。

部長 喫煙率13.14%（県平均11.96%）と、お酒を毎日飲む習慣23.32%（県平均20.36%）が高い。また、食べる速度が速い、就寝2時間前に

食事をとることが多い、夕食後に間食をする、朝食を抜くことが多い。以上の傾向がある。

要望 富士宮市の男性の健康寿命が短いという実態を市民に周知するようにしていただき、ポイントを絞った健康指導をお願いしたい。

地域電子マネーの提案について

問 市内の電子マネー決済状況はどうなっているのか。

部長 大手量販店では、クレジットカード決済47.9%、電子マネー決済24.1%、現金決済28%と72%が電子決済である。一方、個人店舗ではほとんど電子決済に対応していないため、市内全体では利用率は大幅に下がるとと思われる。

問 お金が循環する地域電子マネーを金融機関と一体で導入すべきと考えるがいかがか。

部長 前向きに研究したい。



▲高山市、飛騨市等で使える、さるぼぼコイン